昇段レポート

東川口・戸塚安行支部
埜中正一

かねてより極真空手を体験してみたいと思っておりましたが、転勤先から川口市内の自宅にもどってきましたのを機に、ようやく、平成十六年、五十四歳の時に、東川口道場に入門させていただく事ができました。初め、恐る恐る「私のような歳の者でも入門させていただけますでしょうか」と、お願いしましたところ、心よく、ご承諾いただき、その場で体験練習をさせていただきました。以後、山下先生を中心に熱心なご指導を賜り、途中、一度は挫折しかけたことも有りましたが、お、よそ十年後、一級をいただく事ができました。三級、二級のころは、初段審査は、六十五歳になる自分では、体力的に難しく、一級をいただければじゅうぶんかな、と思いましたが、いざ一級をいただきますと、欲がでてきまして、又、先生からは「その気になって頑張れ

ば不可能なことは無い」とのお言葉をいただきましたので、「受かっても、落ちても、これが最後、一年間、全力を尽くしてみよう」と心に決め、改めて、昇段審査に向けてのご指導をお願いさせていただきました。今までも、仕事の合間や帰宅後に、筋トレや心肺機能の強化等、多少は行っていましたが、自分なりに可能な限りやって見ようと運動量や型の練習等を増やして見ました。初めのころは、運動量を増やしてもなかなか向上せず、又、今まで、あまりやっていなかったジョギングを強化した所膝を痛めてしまったり、途中いろいろありましたが、身体と相談しながら、審査日に向けて、徐々に強化していき、大きな怪我も病気も無く、昇段審査を向えることができました。課題であった十人組手もなんとか達成でき、無事、審査を完了する事ができ、後日、「昇段」のご通知をいただきました。これは、ひとえに十一年間、ご指導いただき、共に稽古に励み、組手

の練習等に力を貸していただきました皆様のおかげであり、深く感謝しております。今後は、極真館の黒帯として恥ずかしくないよう精進してまいります。人生何があるかわかりませんが、体力の許す限り、生涯修業を目指します。

20 × 20